

果根七湯琴
三

ル 4
1124
3



凡 4
1124
3



菅根七湯藥卷之三

塔澤の部

目録

- 一 湯宿並効驗
- 一 塔沢の記
- 一 全圖
- 一 玉の緒滝湯の由來
- 一 同畧図
- 一 明人舜水の墨跡寫



菅根七湯藥卷之三

湯宿四軒

一の湯澤左門

田村久兵衛

元湯弥五兵衛
藤屋喜八

効驗

中風 脚氣

筋痛

冷症

頭痛

打身 骨痛

金瘡

痔漏

下血

腎虛 勞瘵

めまい

疝氣

淋病

六ヶけ 氣積

ふか血

赤血

鬱症

口痛 齒痛

又子あききの湯につるくほり心
心懐怡ん

塔澤の記

雪中庵嵐雪

山野のあり温泉ありと云ふも氣血と云ふも二廻
くわく津光祿後日毎く捨く寺眺をなすめを以て東
山の山岩ありて行方たより指とかけく蒼天と云ふ
一七峰遊りてく松露の滝深天のをくま
指と貫き玉とまろびのく神の眼といふ
志ひくゆ温泉の如任境の助新なり一日湯の記と
るたり一とりのくやく大くび言ハ早雲瑞巖和尚
の述作くく流上龍蛇と云ふも言と信の伴也
十何く夏東天の阿育王八万四千の宝塔と云く威後
の仁舍利と云ふも大剛く市一玉ひたるがこの
白のむく山く七ヶ所のく一なり信の峰ハ杖藜り
十八丁の滝祖と云く厚く昔昔の一字の所堂あり
阿育王山中く阿陀陀寺の四子支那南派老師り

筆跡中真の困甚單拙云と云く一持化の人考
て筆跡あり一若窟の流を相史よりみ六丁中く山と
て懸史も通ひ難く行祖く何り言くこのま
く居く流一人衆くく遷化をくや例く人
の根氣と云く今い庵も山のく後く吹くく流
里をく玉中をくたやまく行通く色くく何
は又東の流と云くをくをく流陽りく
くく信の史まくく保何くく楽のあり言替れ
夫くく東信通周くく古史くくなり彼何く
寺く遠登りく流中くく火くく用をくく
くく言をくく入くく前後たくく系と云
仙傳のくくこのくく何くく各りく
慈のくく及くくはくく水雨

此湯の世より治するものありて六七十年来其水の
ありて治するものありて里の入口に熱所種反の小
社ありて治するものありて此の地より治するものあり
たつたなりて治するものありて田更此比の葉より治す
て不現なるか ねとりて治するものありて其比位にて治す
るものありて治するものありて人いふに任自す
としるものありて小田原より一家と称す 居候
たりたり候とも猪熊水のおきれ多くて友とせりとの
さきより治するものありて一々の陽川家
そより治するものありて集りての六七折新滑上の湯
元湯背戸の湯河原の湯等なりて玉の緒入庵は向
は近年治するものありて由緒未詳中折宿を治す
の大字の所ありて水野氏何来と脚不仁の杖有り

け湯りありて治するものありての祇女二人の宿傳あり
りてありて治するものありて痛うらんとするものありて
十二音神の擁護ありて治するものありて熱病宿傳のねとりて
一器醜酒二搯と云ふものありて治するものありて其付のませ
さのい今の高きなりて治するものありて九十有金極極
あは健う治するものありて大力量の祇女ありて治するものあり
候りありて治するものありて治するものありて治するものあり
治するものありて治するものありて治するものありて治するものあり
治するものありて治するものありて治するものありて治するものあり
けりて治するものありて温泉の記とて今湯山瑞岩和尙の
自とされりて治するものありて干時貞なる年甲子

治するものありて治するものありて治するものありて治するものあり

二月の比小川宗孟の後宗泉の館へ瑞巖名とり
おひし付宗泉に宗孟の二男天野如晴石川千江
の適子と言け村の長と田色益親亦のちしり
ゆせとあるされしと云ふなりこのと今一の湯は奈
の家を持つてし宗泉と小川知頼とと小川宗孟
はくち著と勢へしと云ふのしとて湯は
一年久しと湯本の里に住居氏寛永七年
年十月八日不思議な事と感しと云ふこの
而とんり林麓野忽として松麻流と云ふ
一旦よ村とありしと密如同志石川千江と
砂石ととびきりなりと云ふと云ふと云ふと
しと湯と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
うり十と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと

まむ今の村岡湯をかり

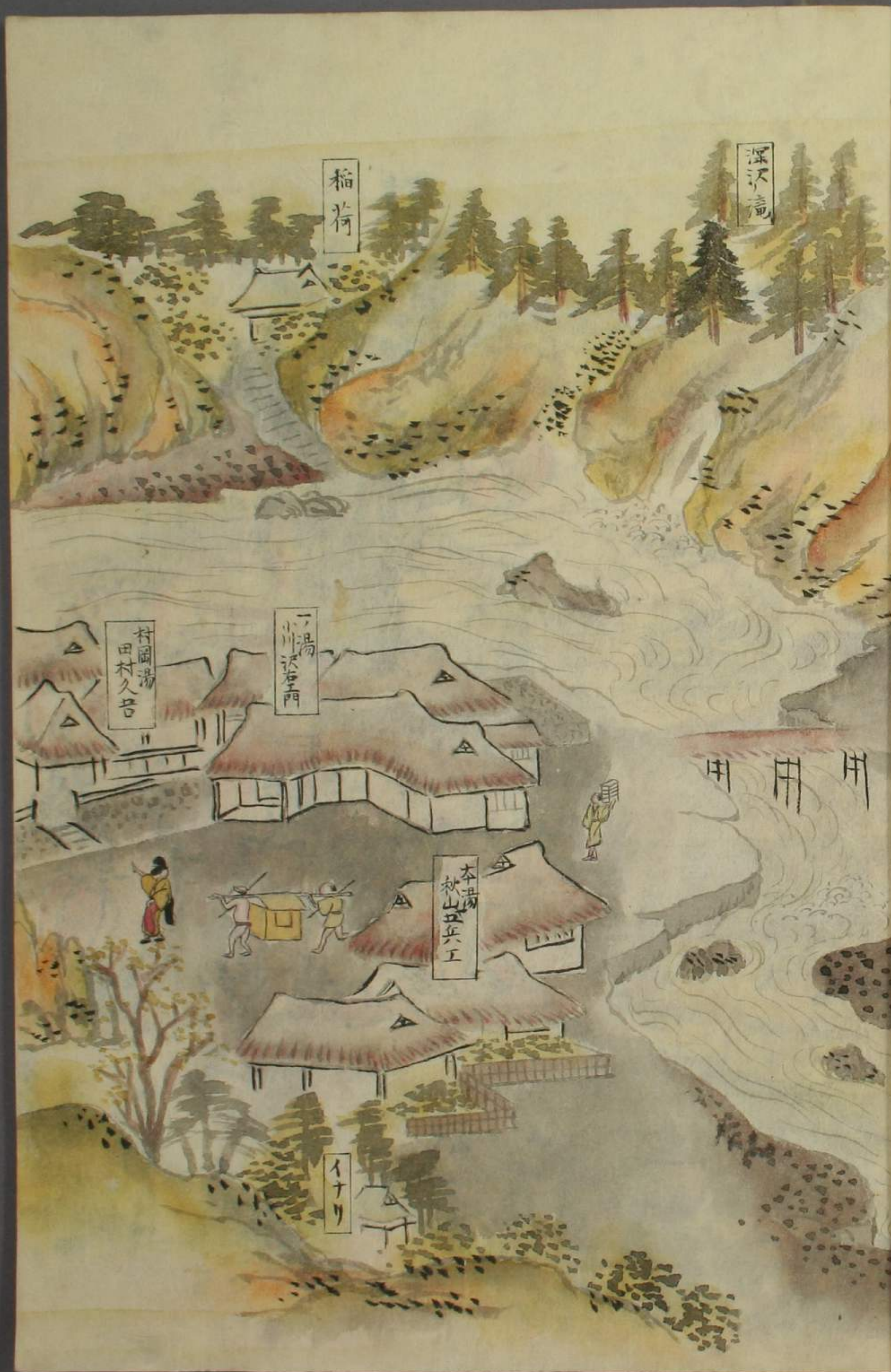
又このあさりのの山を湯飯と云ふと云ふと
かとうと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
うりとう湯と云ふと云ふと云ふと云ふと
いとうひ日記

東路の湯飯と云ふと云ふと云ふと云ふと

塩本をかり湯と云ふと云ふと云ふと云ふと

阿仁尼

六の河伝尼中しと云ふと云ふと云ふと云ふと
のすかり後と云ふと云ふと云ふと云ふと
骨枕のつひと云ふと云ふと云ふと云ふと





宮ノ下堂ノ嶋
ニ出ル道

本宮ノクキ
此ノクキリ

熊野権現

地藏堂

傳言此地勝驪山 靈液殊開大嶽間
一自始分神女澤 至今駐里遠人顏
江未不盡疑香漢 浴罷何妨共玉環
肌骨元除塵垢事 便應輕舉踏雲還

因新湯宿田村久曾の家より河を流す湯水拭物あり

頌大権現神湯

河入東峰景色新
地脈煉出溫泉於
善療諸病極奇得
神恩救苦多其人

余因染疾疾同分
神而治療百病遂
却盡瘡口吹上阿

大明権現子

常水号号山て此は朱子名の之論字の櫻明の浙
江乃人なり水府の客より率より付年八十三
文恭先生中隠氏

玉之緒の滝因の涼風景



玉の緒乃滝由朱

湯

秋山 弘 又玄園
田村 久 玄園

この書湯宿秋山弘又玄園方より一神の
そりのたより

貞享四年辰十月八日の夜秋山道榮とてふ志士が山
熊所権現と祝念の余り思ひ込寅の刻に寝て於六
旬とも是れ山伏の中とて右の膝のかつらとて思
の神色管河つと山伏の中より山思動と思ひ倒れ
ハ彼の山伏のしゝ家にも是れ熊所山伏の故ありと
ハ入湯まじりて彼神儀宮の蓋とてしゝ中より
長さ七寸横一寸のれつ板に牛五枚板を並べて
いづれにせられぬ婿男湯と書けりといふこと又牛五枚
湯とて人の若ともいふこといへて爰より東西より川
と隔る湯泉のうらとて穿たれ法人の病苦を深し別
泉の名も新井といふこと新一首の伝奇とていふ

いまだゆけんすかゆりよきりり夢中なり
かり玉の緒の滝

又えの湯といへる早稲玄上人の徳を念及といは法師
おりの病りかきりりやいふこといへる上人哀れと
こそなりて彼をたもゆへに津辺にありて常よ持
あまの鉄の杖とていへて侍とていふこといへる
く雲湯涌ありり念及この湯といふこといへる徳と
いへる湯井もたより
え湯といふ書方よりかくる扁額並板物のりり

臨門館

右應

大日本新降美

一需

喜慶二年正月

吳興揚愚漢書

以類、朝鮮人吳興揚
愚漢書にてえ陽屋之書
送る所あり

湯

新

道

伊との

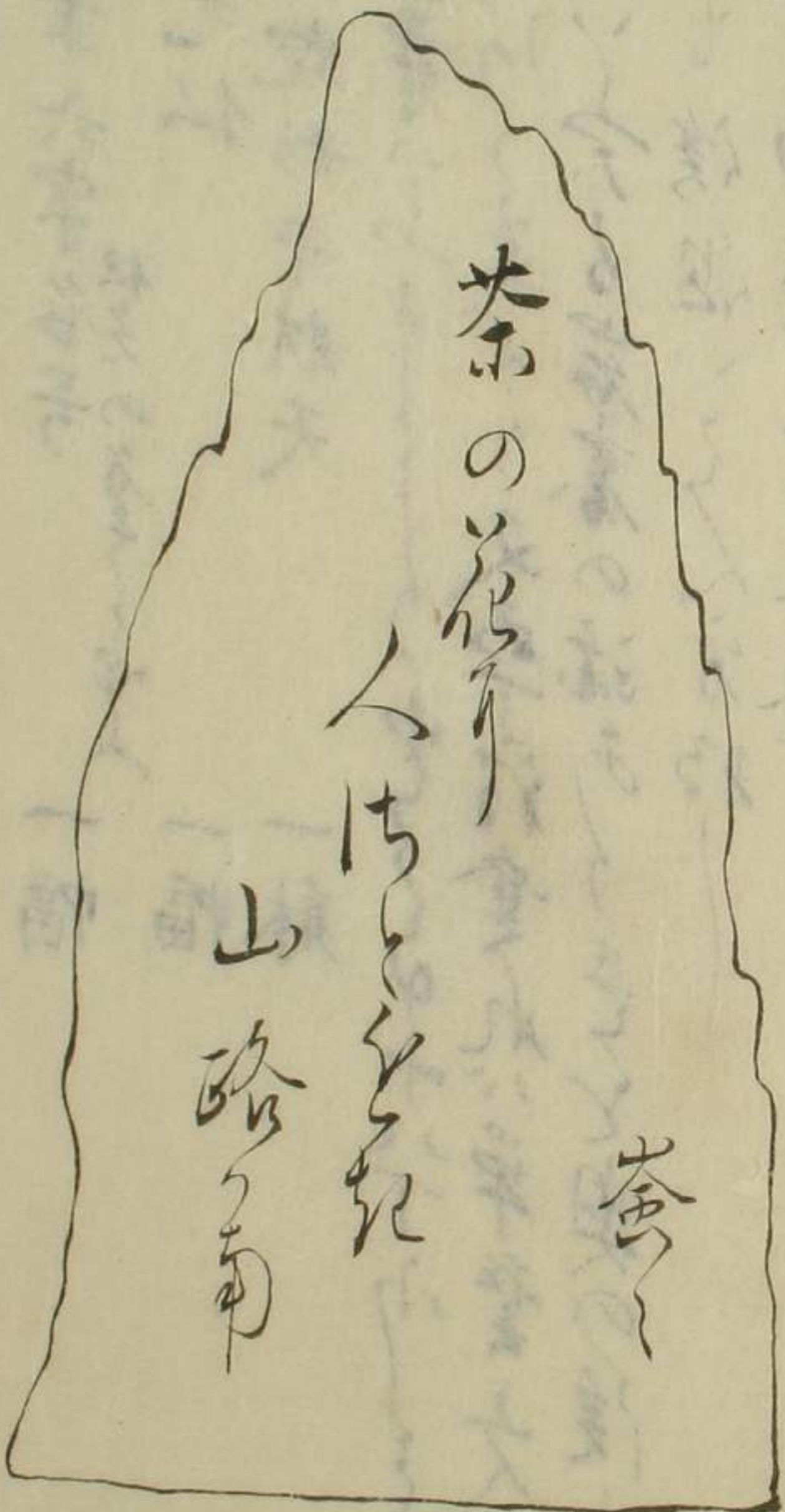
ゆる〜

たまはげやの名

志の〜と〜紀也翁

ゆと〜

ふ〜



塔津より丑六丁湯本の町へ出る所のたの方
り茶の花の碑は〜ま〜ま〜ま〜塔は〜
本水の湯名道中〜く〜か〜の碑の〜
返り〜か〜ひ〜を茶の花の〜
〜高さは〜り〜

石ころの柳はくろくねるくろく

越路

相川信之丞河原五山阿彌陀寺什物

一 佛舍利 一粒

一 草拈上人 鉄の足駄 一足

一 同杖 一本

一 同筆六字名号 一幅

一 十二光仏 一幅

一 肉身蛇形弁財天 一鉢

阿彌陀寺はふりくろくくろくくろく十八丁山一丁の

草拈にりり又五丁経巻れが草拈上人巻り

まよくく穴ろ岩窟の跡あり是と奥の院く

いづもは後祖いづもく方物

菅根七湯禁三の巻終

